

令和7年度

白井市中学生平和使節団

第1期派遣報告



派遣期間

令和7年8月4日（月）

～8月6日（水）

【募集・選考について】

- ・対 象： 市内在住の白井市立中学校、国・県立や私立中学校生
- ・選 考： エントリーシート、作文、面接等
- ・その他： 白井市教育委員会が選考

【選考結果】

- ・市内中学校生徒12名、千葉県立中学校生徒1名・・・計13名
(3年生10名、2年生3名)

【結団式及び第1回事前学習会】

- ・令和7年7月17日(木) 白井市役所庁舎内

【第2回事前学習会】

- ・令和7年7月29日(金) 白井市役所庁舎内

【事後学習会】

- ・令和7年8月19日(火) 白井市役所庁舎内



R7.7.17 白井市中学生平和使節団結団式

平和使節団派遣に向けて（結団式にて）

私たちは今、広島平和使節団としてここに集まりました。この活動を通して、被爆地・広島の世界や平和の尊さについて深く学び、多くの人へと発信していく大きな責任を担っています。私自身、これまで教科書や映像で原爆の悲惨さについて学んできましたが、それはあくまで表面的な理解にすぎませんでした。これから実際に広島を訪れ、被爆者の方々のお話を直接聞いたり、資料館を見学したりする中で、戦争の現実と平和の重みを心で感じていきたいです。

また、私たちは未来を生きる世代として、戦争の悲劇を風化させない努力を続けなければなりません。そのためにも、この経験を一人ひとりが自分ごととして受け止め、自分の言葉で語り、周りの人に伝えていくことが大切だと思います。

平和とは、当たり前のように、当たり前ではないものです。だからこそ、日々の生活の中でも「人を思いやること」や「違いを認め合うこと」を大切にしながら、行動していきたいです。

令和7年7月18日（木）

白井市中学生平和使節団代表 奥野 絢美



8月4日（月）



～戦争や原子力爆弾に
よる被害の実相を知る～



原爆ドーム周辺の真実！

〈原爆資料館〉

一番印象に残ったのは焦げて
るほどやけどをしている
人がほとんどなこと。
また、爆心地から少し離れ
て被害を受けた人は、原爆
投下による病気で苦しみな
がら亡くなった。



〈今日学んだこと〉

原爆により広島と多くの人がどのような被害を受けたのか
が分かった。実際にドームだけではなくいろんなものを実
際に見て、聞いたことでより印象に残った。自分がこの時
代を生き家族を亡くしていたらと考え、ものすごく同情し
た。平和のためには何ができるかまだまだ考えていきたい。



原子爆弾が上空600メートルで炸裂。

↓T字の橋（相生橋に向かって投下した）

実は原爆ドームは原爆が落ちる前は美術館、または
デパートだった。

千羽鶴は日本各
地から贈られる
その送られた千
羽鶴は広島にあ
る、学校の卒業
証書などの再生
紙になる。



Peace

R7 平和使節団 1日目!

✓ 原爆ドームって? ~ 未来に伝えたいこと ~

➢ 正式名所は旧広島県産業奨励館である原爆ドーム。1945/8/6に原爆が落とされた爆心地からわずか160mという距離にあった。

Q. なぜ残されている?

A. このドームは「負の遺産」となるため、残すのに反対の声も多くあったが、今の時を生きる私たちに平和の尊さを伝えるために残すことになった。だからこそ、未来の社会を担う自分達がこれをしつかり継承していかなければならないと感じた。

✓ 外国人の観光客に話を聞いてみると、
"I learned about a tragedy I couldn't have understood just by studying in home country (America). Everyone should know the horror of the atomic bomb." [母国(アメリカ)で勉強するだけでは理解できなかった悲劇を知りました。原爆の恐ろしさは誰もが知るべきだと思いました。] といったコメントをしてくださった。

✓ 平和記念資料館

~ 戦争の悲惨さを風化させないために ~

➢ 広島市の平和記念公園内に設置されてある原爆ドームのすぐ近く。

Q. 何のための場所?

A. 原子力爆弾の恐ろしさと、戦争で起こった悲劇を伝えるための施設。
➢ 中には、なくなった人たちが着ていた洋服や日記。被爆した体験を語る映像などがあり何があったのかわかるようになっており非常に感慨深いものばかりだった。



平和への光

令和七年八月四日 一日目
白井市平和使節団 十三

普通、とは何か

現地に行つてわかる原爆

広島市の原爆と聞いて皆さんは何を思い浮かべるだろうか。



→川の反対側から見た原爆ドーム

一日目の今日は、原爆ドームや平和記念公園、広島平和記念資料館を訪れ、ガイドの小池さんから建造物や被爆者の方々についてお話を伺った。原爆が、この美しい広島という町をどれだけ壊したのか生々しいほどに実感した。私が今日の中で最も心に残っているのは、資料館での展示物だ。一九四五年八月六日八時十五分に原爆が

落とされてしまったその瞬間まで、人々の毎日の生活は続いていた。暖かく明るい街、そこに広がる笑い声。戦中で大変な中過ごしていたとはいえ、そこには幸せも存在していたはずだ。原爆が落ち、全てが一変してもなお、家族や周囲の人のために身を粉にしていた方がいたそう。当時の街並みや人々のことを考えると、この文章を書いている今でも涙が零れ落ちてしまう。戦争や原爆を体験していないから何だ。今日私が感じた、インターネット上の文字や数字からは絶対に読み取ることのできないこの感情は、一千億年先になっても全世界の人間が体験するべきだ。

以前の私なら、初めの問いに対して「何百万人も人が命を落としてしまったもの」としかこたえることができなかっただろう。今の私はこの回答に納得できない。この三日間を通して自分なりの答えを見つけ、第一回白井市平和使節団としての責務を全うしたい。



↑平和の鐘。8月6日に行われる平和記念式典では、これと同じ鐘が鳴らされるという。

鐘に込められた思い

必ず訪れる平和な未来を願って

平和記念公園にあるこの鐘には、人々の数えきれないほどの思いが詰まっている。

この鐘がつるされているドーム型の屋根は宇宙、鐘は地球を表している

また鐘の表面には「世界は一つ」を意味する国境のない世界地図が描かれており、人々の世界平和に対する思いが感じられる。さらに原子力マークが刻印されおり、鐘を突くことで原水爆禁止を表現することができる。鐘には銅鏡も設置されており、実際に鏡として使用することはできないが鐘を突く人の心を映すとされている。鐘の周りには蓮と浅い池がある。八月六日、広島中の医療機関で包帯の代わりに蓮が使用されていたことや、浄土の意味を込めて植えられている。池は、当時原爆を受けて亡くなった人々の最後の言葉が水を欲しているものだったため、とされている。

今回は平和の鐘についてを取り上げたが、平和記念公園内の建造物などには本当に些細なところまで人々の平和に対する思いがぎゅっと詰まっていた。私もその思いに込められるように、これからも平和について考えながら毎日を大切に過ごしたい。

平和使節団一日目（八月四日）

白井市平和使節団
八番
平和記念公園

原爆の恐怖

原爆ドームのあった地域は戦前、広島一の繁華街として栄えていました。原爆ドームの戦前の名は「広島県産業奨励館」、大きな建物の中には、デパートや博物館などが入っていたそうです。

そして、奨励館の近くにかかる「相生橋」。この橋も、繁華街の一部ということもあり、たくさんの車や人が行き来していました。

しかし、そんな相生橋めがけて八月六日、とあるものが落とされることになるのです。そう、**原爆**です。

高度九六三二mから相生橋めがけて落とされた原爆は、広島の上空をゆっくりと降り、高度六百m付近で大爆発を起こしました。

爆発とともに発生した爆風、熱線、放射線は、一瞬にしてあたりの建物を崩壊させました。そして、何より恐ろしいのが、**放射線**です。一度放射線を浴びてしまったら最後、**髪の毛が抜けたり、体中に紫色の斑点（死の斑点）**ができたりと、**多くの人が放射線により命を落としてしまいます**。そして今でも、およそ九万人もの人が、放射線による病気と闘っているそうです。

そんな原爆による被害者は現時点で三十五万人（白井市の人口の六倍）を超え、今でも増え続けているそうです。

そんな悲惨な当時の状況を後世に伝えるべく、広島には、八十五個以上の、当時の施設が残っています。しかし、建物の老朽化などにより、保存が難しくなったものも多く、このような建物はこの先どんどん減っていくことが予想されています。

このように、これから先、被爆当時の様子を正確に伝えるものがどんどん減っていくてしまうでしょう。それでも、核兵器の恐ろしさが消えるわけでは全くありません。そのため、今ある資料を大切に残していき、未来の世代にも核兵器の恐ろしさを伝えていきたいなと思いました。

最後に、平和記念公園の中にある平和記念資料館には、そんな当時の資料がたくさん展示されているので、広島に行った際にはぜひ行ってみてください。



広島 DAY 1

原爆ドーム・平和記念公園

世界平和を訴える象徴の【原爆ドーム】

1915 年「広島県物産陳列館」として、建設。

その後、「広島県立商品陳列所」「広島県産業
推助館」

と改称された。



「原爆の子の像」に捧げられている折り鶴

日本各地の学校や、会社から折り鶴が年

間 1000 万羽も届く。この折り鶴を一定期

間平和記念公園に置き、思いや、祈りを、

次の世代へ繋いでいく活動を行っている。

そして、折り鶴は再生紙として使用されて

いる。



平和記念公園にある時計

塔は、毎日必ず 8 時 15 分

にチャイムが鳴る。だが、

8 月 6 日 8 時 15 分は

チャイムが鳴らない

ただの時計塔かと思いま
したが、素敵な時計塔だ
と知ることができました。

反核悲願の象徴の「平和の灯」

この火は雨でも、雪でも台風でも消えない

いつ消えるのか→全世界から完全に核兵器が

なくなったら火は消える。





平和の時計塔

1967年10月28日に建てられた時計塔。3本の鉄柱がそれぞれ60度ずつひとひねりした塔上に、球体の三方を向いた時計が乗っています。高さは約20mほどあり、下の方が過去、中央のひねりは戦争、上の方は未来、その上に乗った球は地球を表しています。

毎日8時15分(原爆が落とされた時間)に鐘がなりますが、8月6日(原爆が広島に落とされた日)にはなりません。



原爆ドーム

広島市に原爆が投下された際に被災した建物。もとは広島県物産陳列館という名前でした。

世界で初めて使用された核兵器の惨禍を現代に伝える貴重な遺跡であることから、1996年の12月に世界遺産へ登録されており、その背景の悲惨さから、ポーランドのアウシュビッツ・ビルケナウナチス収容所などと並ぶ「負の世界遺産」と呼ばれています。

広島平和記念公園・広島平和記念資料館

原爆の被害

この「平和の女神」は、作業中に亡くなった学生の慰霊碑。上にハトがいて、そのハトは学生の代わりに飛び立とうとしている。女神に誰でも祈れるよう、新教・キリスト教・仏教を表したものがある。



歴史資料館をみて、初めて写真で原爆がどのように体に害があるかを見ました。皮膚が焼かれて、落ちそうになって、それを止めるために川に飛び込んで、それでも治らない。絵や実際の洋服、音声ガイドを見たり聞いたりして、当時のことをよくよく考えました。言葉では表せないほど、悲惨な姿が目には浮かんできます。このようなことがもう起こしてはいけないと思いました。2度と戦争を起こさないようにするためには、このような資料をもっと広めていく必要があると思います。資料や実際に残っているものを見ると、当時どのような状態だったかがよくわかるので、平和にするには、どうすればよいか、実際の資料を基に討論するとよい結論がでると考えました。私が帰ってからみんなに広めるとき、今日体験したものや、写真、その時の感情を使ってより鮮明に伝えていきたいです。



この「原爆ドーム」は、原爆がおちた真下にあったため残っていた建物。1966年に世界遺産に登録された。「ヤン・レルツ」という人が作り、もともとは銅だったので、屋根が緑色だった。

令和7年8月4日
白井市平和使節団
2番

爆心地

- ・爆心地の近くにあった病院の約80人の医者が死亡した（医院長は遠出していたため被害は受けなかった）。
- ・その近くにあった鳥居は広島城に移動したため広島城に行くで見られる。



平和記念公園

- ・平和記念公園は被爆前、**繁華街**として栄えていた。
- ・平和記念公園は原爆ドームを中心としている。
- ・原爆ドームの一番上から道路を挟んで反対側の体育館の屋根の中心をつなげると平和記念公園の軸線となっている。



原爆死没者慰霊碑

原爆死没者慰霊碑は約34万人の名簿が入っている。（時々外に出す→湿気が多いため）風通しという。



動員学徒慰霊塔

- ・作業中に原爆で亡くなった子供たち…約6000人
→これは五重塔をもとにして作られたもので、仏像みたいなものは、日本人が入っている宗教（キリスト教、仏教、神道）をもとにしている。

一日目を終えて 思ったこと・感じたこと

今日ガイドさんの話を聞き、実際に見てみて、聞いて考えるより実際に見て考えたほうが何倍もの重みがあると感じました。原爆ドームについても、普通なら知ることができないようなことも、ガイドさんの詳しい説明で知ることができました。原爆ドームがどんなふうになったのか等も知ることができたので、戦争や争いごとなどについての考え方もさらに深まりました。今世界でこのようなことが起きていると考えたら恐ろしいことなので、こういうことをなくすために今回の活動を生かしていきたいと思います。

ひろしまレポート

白井市平和使節団8月4日

原爆ドームでの学び

原爆ドーム、平和記念公園、広島平和記念資料館を訪れて中学生の私が学んだこと・感じたこと

原爆ドーム・平和記念公園

原爆が落とされる前、この周辺は広島一番の繁華街であった。相生橋は原爆を落とされるターゲットとなっていた。だが、橋は壊れなかった。原爆は空中600メートルで爆破した。建物は壊されることはなく、その上から様々なものを張り付けているため、中には原爆の被害を受けた建物が残っている。私は原爆ドームを見て、原爆の被害が凄まじいものであり、建物をここまで破壊してしまうものの被害を受けた人がどれだけつらかったかを考え、今の私たちの環境がその時と比べ、とても良いものだ実感した。



広島平和記念資料館

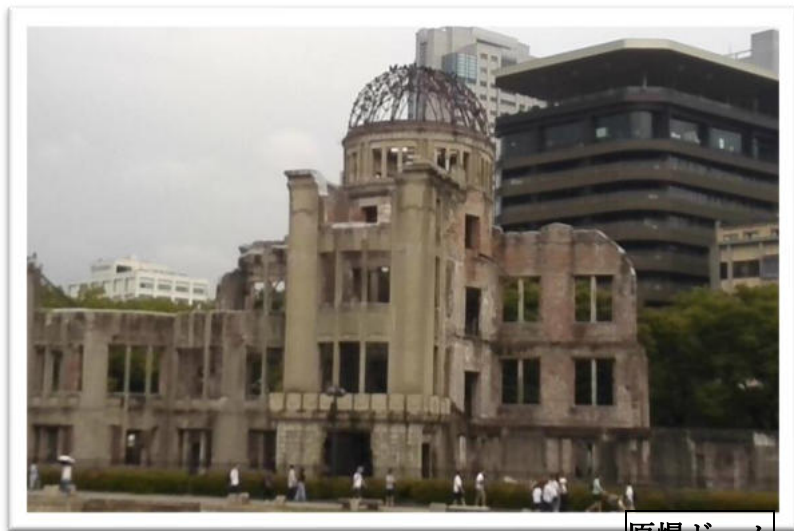
広島平和記念資料館には被爆者の衣類や黒い雨の絵などがあつた。被爆者の衣類は一つ一つ丁寧に保管されているようにみられた。これはこれらのものが、平和を継承していく上で、とても貴重なものであることを物語っていた。原爆の被害を受けた人の私物を見ても、今の日本が昔はこのような悲惨なことが起こっていたなど、信じがたいほどのものであつた。私が見たもののほかにもたくさんの被害があり、今後あつてはならないということを改めて感じる事ができた。

これらの学びを通して

私はこれらの学びを通して、もし私がこの時代を生きていたらどうなっていただろう、と考えようと思った。だが、私たちが想像しても想像しきれないほどの被害を受けた人がいる。私たちは原子爆弾を甘く見てはいけない。私はそう思った。今後、私は8月4日に見たこの光景を忘れずにいようと思う。そして、多くの人が平和祈り続けていること、これを少しでも多くの人に伝えたい。



動員学徒の慰霊碑の8羽の鳩は今にも飛んでいきそうに見える、子どもが羽ばたけるようにという意味が込められている。



原爆ドーム

広島平和記念公園



《広島の原子力爆弾》

1945 年の 8 月 6 日の 8 時 15 分に広島市に原爆が落とされ、約 7 万人の人が亡くなりました。その後、重傷者や病気、放射性物質の影響で亡くなった人も合わせると、15 万人以上の人が亡くなったといわれています。

原子爆弾と普通の爆弾の大きな違いは爆発する位置です。普通の爆弾は地面に落ちてから爆発しますが、原子爆弾は上空 600 メートルで爆発します。これにより、爆風の範囲が広がり、放射性物質の拡散が効率よく行われ、被害をより広い範囲に与えることができます。

原爆は、当時は世界で一番大きいといわれていたエノラ・ゲイという飛行機によって落とされました。その際に三角の橋（相生橋）に落ちるように計算しましたが、実際は広島赤十字病院に落とされ、多くの人と医療機関に被害を与えました。病院内にいた看護師、患者の全員がその場で亡くなりましたが、院長だけは、出張で出ているため生き残り、今でも病院が受け継がれています。

赤十字病院だけではなく市内の病院のほとんどが壊滅的な被害を受け、怪我を負った市民の多くは十分な治療を受けることができませんでした。原爆投下直後、元安川や本川に多くの人が飛び込みました。落ちた時の地上の温度は約 3000 度から 4000 度にもなり、被爆者は水を求めて川に飛び込みましたが、水深が深かったため、飛び込んだ人の大半はなくなりました。

《一日目を通して感じたこと・思ったこと》

- ・改めて核兵器は強力な武器になることが分かった。これ以上被害を増やさないためにも核兵器を根絶することが大切だと感じました。
- ・落ちた時の爆風や建物の崩壊によって亡くなる人が多いと思っていたけれど、その後の放射性物質による被害が大きかったことが分かりました。ケロイド（火傷によって過剰なコラーゲンが生成され、硬く、赤く腫れあがった状態のこと）で苦しむ人が多かったことも初めて知ることができました。
- ・資料館では家族の遺体を見つけた時などの悲しみや怒り、やるせなさが伝わってきました。遺品と共に書かれている当時の心境や、状況を読むことで、被爆者にどれだけ深い傷を負わせることになったのかを感じることができました。

中学生平和使節団

白井市平和使節団 No.1

8月4日

平和記念公園

原爆ドームは元々物産陳列館だった



原爆ドームは原子爆弾の爆風で窓や壁が壊されたが、平成8年に世界遺産、文化遺産に登録された。

広島平和資料館では被爆者の持ちものや当時の状況の証言、当時の写真・絵などが展示されていた。中学生の当時の衣服→ 布がボロボロになっていた。

平和記念公園では原爆の恐ろしさ・広島に原爆が落とされた理由が分かった。広島平和資料館では当時の残酷な姿に言葉を失った。



現実で起こったことなのかとショックを受けた。核兵器がこの世界からなくなりますようにと心から願った。

白井市平和使節団 No.1

〈平和記念公園〉

もともと平和記念公園は、広島一の繁華街となっていて、周辺には川があり、軍需産業が盛んになっていた。そのため、広島はアメリカ軍の原爆投下のターゲットとなった。また、相生橋は、川の上にT字にかかっているため、上空から目立ちやすく、原爆を落とす目印とされていた。

1945年8月6日午前8時15分、原子爆弾「リトルボーイ」が 相生橋の上空約600mで炸裂した。火



の玉は、直径約400mで、3000～4000度という強い熱線、時速1500kmの強烈な爆風、そして0.2Gyの強い放射線が街を襲った。この中で、放射線は原爆が落とされたその瞬間だけでなく、一度浴びた人は何十年もの間、放射線の影響を受けている。原子爆弾により、多くの建物は崩れ落ち、今に残っていないものがほとんどだ。けれど、相生橋は壊れずに残り、原爆ドームは、鉄骨の骨組みや、レンガなどが見えるものの、一部は奇跡的に残っ

た。爆心地近くにいた人の中で、燃料会館(現：平和記念公園レストハウス)の地下室に、資料を取りに訪れていた人の一人だけが生き延びたといわれている。

当時、戦争のために多くの大人が出勤していたため、労働者が不足していた。そこで目をつけられたのは中学生から高校生で、代わりに働かされていた。建物の解体作業に動員され、爆心地付近で作業の途中で、原爆に遭い、約6800人もの子供たちも命を落とした。

そのため、広島平和記念公園の中には、亡くなった子供たちを象徴する鳥や、五重塔をモデルにした慰霊碑、原爆による被害でなくなってしまった少女12歳の佐々木禎子さんをモデルにした像がある。佐々木さんは、2歳で被爆し、12歳のころに白血病を患った。病気の中で、佐々木さんは「折り紙で折り鶴を折れば元気になる」と信じて、鶴を折り続けた。折った鶴は1000羽を超えるものだった。1000羽を折ったものの、佐々木さんの体が回復することはなかったが、佐々木さんの想いは今では世界中の人に伝

わり、多くの人が千羽鶴を捧げるようになった。

像の下には次のような言葉が記されていた。

「これはぼくらの叫びです
これは私たちの祈りです
世界に平和をきづくための」



世界中から届いた千羽鶴は再生紙として利用され、多くの学校での卒業証書などに使われており「平和を受け継ぐ」という意味が込められている。

現在でも、原爆の影響を受けている人がいる今だからこそ、彼らの証言などを受け取り、私たちが未来へと「平和」を受け継いでいくことが大切。

広島→かつて**繁華街**で、とても栄えていた=**原爆**の標的にされるきっかけ
軍事施設や、**陸軍の中心地**としても利用された

《原爆の三つの特徴》



・強い熱風

通称**ピカドン** 地表の温度は**3000℃～4000℃**までに達する。ピカドンをくらった人は**骨など残らず蒸発し、影だけが残る**。(左写真)とても恐ろしい

・放射線

エネルギーは、**新幹線の約五倍**ほどの力になる。放射性物質が放つもの。

・爆風

その名の通りものすごく強い風。爆風のせいで**原爆の煙が空高く舞い上がり、放射性物質を遠くへ運んでしまう**。

《わかったこと》

・広島で被爆され亡くなった人の数・・・344306人

・原爆ドーム・・・ももとの名前は広島県産業奨励館。屋根の色は緑で、1915年にヤン・レツルというチェコ人が建てたデパートのようなもの。
 被爆後、だれかが原爆ドームと呼び、現在に至る。

・佐々木貞子という人は、被爆されたが、奇跡的に生き残った。だが、小学校卒業前、**原爆病**にかかり、
 医者から**余命宣告**を受けてしまう。悲しみに暮れた貞子だったが、ある名古屋の女子大学生から、
たくさんの折鶴と手紙が送られた。手紙には、「一人じゃない、みんないる。」と書かれてあった。
 それを読んだ貞子は、元気を出し、平和の証として折り鶴をたくさんおり、安らかに眠った。

《1日目まとめ》

今日の体験を通じて、戦争は、絶対に繰り返してはならないことだと改めて感じた。
 核兵器の恐ろしさや、仕組みについて学び、一個でも恐ろしいのに、世界には約12000個の
 核兵器があるという事実があった。それを私たちは受け止め、学び、後世に受け継いでいけ
 ば、核兵器という戦争の一部を防ぐことができると思った。



現地ガイドさんと

8月5日（火）

午前：戦争の実相

広島復興の歴史を知る

午後：知識の発信・交流

「全国平和学習の集い」参加
～Peace for Smile、
Smile for Peace～



おりづるタワー

広島市にある13階建ての建物。13階は壁のない展望台になっており、原爆ドームや平和記念公園が見渡せます。

またおりづる広場では、おりづるタワー専用の折り紙で折ったおりづるを「おりづるの壁」に投入することができます。世界中から集まった平和への思いや祈りが積み重なって壁となり、おりづるタワーが完成しているのです。

広島城

原爆投下の際に全壊し、13年後の1958年に鉄筋コンクリート造で外観復元されました。広島の復興のシンボルとして親しまれ、現在は主に広島の武家文化を紹介する博物館となっています。国内外からの多くの観光客でにぎわっています。2026年3月22日に閉城してしまいます。



広島と夾竹桃

当時、広島に原爆が投下された際に「広島に緑が戻るのは75年後になるだろう」と言われていました。ですが原爆投下の約1ヶ月後、広島の土地に小さな芽が出ました。その芽は夾竹桃の芽で、当時復興のために懸命の努力をしていた市民に希望を与えてくれました。

開花は夏で特に8月6日の平和記念日のころに花の盛りを迎えます。

広島には原爆の悲惨さを伝える施設がたくさんあります。写真では伝わりにくいことも多くあるので、実際に訪れてみてはどうでしょうか。

二日目（八月五日）

白井市平和使節団
八番
広島城・折り鶴タワー

つながる平和

☆折り鶴タワーの意味

折り鶴タワーは、二〇一六年に新しく建設された施設で、名前の通り、館内の最上階で、自分で折った折り鶴を落とし、羽ばたかせることができます。そして今まで落とされてきた折り鶴は、実に三十万個を超えているそうです。

そんな折り鶴タワーの存在を知った時、僕はこう思いました。「どうして折り鶴なんだろう」と。しかし、その答えは、原爆ドームを中心に構成される、平和記念公園の中にあります。それが、佐々木貞子さんや、原爆によって命を失った子供たちのために建てられた「原爆の子の像」です。

原爆の子の像の周りには、たくさんさんの折り鶴が飾られています。これは、佐々木さんが生前、千羽の折り鶴を落とすことがきっかけとなりました。

そして、これらから発想を得て建てられたのが、折り鶴タワーなのです。

このように、古い建物から新しい建物まで、たくさんさんの施設が、平和を連想させる、広島県の、平和に対する姿勢がよく伝わったとともに、この姿勢が日本中に伝われば、より世界が平和に近づくと思いました。

爆心地からおおよそ1kmの距離にある広島城。

被爆当時、この広島城周辺にいた一万もの兵士も命を落としたそうです。



観光 & ディスカッション

Peace for Smile, Smile for Peace

〈全国平和学習の集い〉

普段聞けない全国からのたくさん意見を聞いて、新しい平和の考え方を学べた。実際の被爆者の方がおっしゃったのは、人を思いやる気持ちが平和に近づけるのに一番大事ということ。その中で聞いたのが、学校で人のいいところを見つける活動を実施しているところがあった。是非私たちの学校にも取り込んで、必ず行いたいくらいだと思ってる。

〈今日学んだこと〉

ここには書ききれなかったけれど、本川小学校の被爆事情も学べた。広島県の花の夾竹桃は被爆して焼け野原になった広島市に最初に咲いたから夾竹桃になったらしい。

広島城！
中には鉄砲を撃つための穴や刀などが展示されていた。展望台の五層目からの景色は広島市を一望できる。



折り鶴タワー！
みんなで平和を祈り、鶴を折った。壁には折り鶴を広げた時の折り目が書かれていた。ここでも広島市を一望できる！



Peace for Smile for Peace!!

被爆者からのお話を聞きました。特に、「原爆ドームをなくす考えに真っ先になった。」と話していて、核が人にどれだけ恐怖を与えたのか、あらためて実感しました。

ディスカッションでは、事前に調べてきたことを発表しあい、まとめました。何個もデータがあると、空襲の目的にする場所がどのような場所か、考えられました。

また、「平和」に関する話題では、一人一人意見を出し合い、最終的によりよい意見を出すことができました。初めて、第二次世界大戦での全国状況を知り、日本がどのような状況だったか、考えることができました。「平和」の議題では、平和に対する捉え方が違ったけれど、解決方法に「話し合い」「平等」がでてきて、考え方は同じだから、もっと積極的に行動していきたいと感じました。



令和7年8月5日

白井市平和使節団

2番



広島城では、実際に使われていたものや、場所をみたり模擬刀をもって、よりリアルに、昔のことを想像することができました。昔の人が城に責められないようにしていた工夫に、ひとつ面白いものがありました。それが、石垣を登ってくる人に向けて石を投げる用の穴が開いていることです。穴が開いていることで、逆に攻められやすくなってしまったりするので、どう使っていくか、広島城の戦略がわかりました。

広島 DAY2

本川小学校・ディスカッション

【本川小学校】

本川小学校の生存者は、二名のみだった。そのうちの一人が”居森清子”さん
放射線の影響で、二回ほどがんになり、
白血病になった。だが、82歳まで生きた
とのこと。学校内部はすぐに全焼した。

Q 何故広島と長崎に原爆投下したのか？

A 広島や、長崎は周りが山だから目標地点に影響を受
けさせることができるからである。そして、なぜ8月6
日に投下されたのか。なぜなら投下しようとしていた県
の中で唯一快晴だったため。原爆を投下するには目視な
ため、晴れていないといけないという条件があった。



【ディスカッション】

ディスカッションでは他県の人と様々なことを話し、共有
することが出来た。死者が多い県や、少ない県。地震で影
響があった県。違うことの方が多かったが、共通点は、空
襲の目的地がしっかりあったこと。そして、その目的地は
軍事基地、軍事工場、財閥企業などなくなったら大きな影
響のある所で、そこに爆弾を投下した。



上記の写真は、原爆直後の半径2 kmの模型



✓班別行動計画

最初に平和記念公園レストハウスを見学。この歴史は、三十七人が被ばくしたうち、一人は地下室にいて奇跡的に生き残ったという記録がある。次に水上クルーズに乗った。ノリのいい運転手と、そよ風とともに乗る船は、平和を感じとても心地よかった。運転手は数々の名所と、その特徴や歴史について細かく話してくれて、とても勉強になった。最後におりづるタワーへ行った。自分独自の個性豊かな鶴を折ることができてとても有意義な時間を過ごすことができた。

✓平和学習の集い

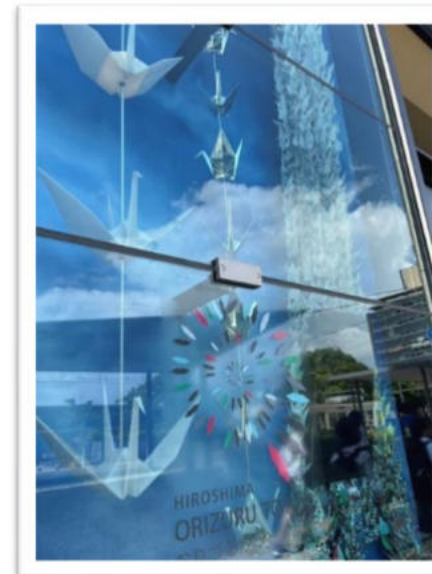
色々な人と議論し合うと聞いて少し緊張したが、グループの人が面白くて、楽しみながらディスカッションをすることができた。原爆を体験した才木さんの話や、概要説明など、とても深く学ぶことができた。ディスカッションでは、全国各地から来た中学生とディスカッションをした。自分の番では、今まで調べてきたこと、それに対する考えを伝わりやすいように述べることができ、相手の番になったら、あいづちや、反応、拍手などで相手に話しやすい環境を作り、無事成功することができた。

✓2日目まとめ

今日の学習を通して、全国各地でも戦争での影響があり、戦争は大規模な被害をもたらすということに改めて気づいた。



「第1回全国平和学習の集い」グループディスカッションを終えて 8月5日(火)の部 ANAクラウンプラザホテル広島会場
(参加自治体)福島県大玉村・千葉県白井市・東京都千代田区・神奈川県伊勢原市・埼玉県本庄市・新潟県妙高市・新潟県弥彦村
長野県塩尻市・静岡県袋井市・愛知県愛西市・岡山県倉敷市・広島県三原市・沖縄県石垣市



おりづるタワーの折り鶴

✓平和使節団 2 日目！

学

本当の平和とは？そしてそれはどうしたら実現できるのだろうか

<第 1 回平和学習の集いにて>

✓当時 13 歳で被爆した才木さんのお話で、原爆の悲惨さがよく伝わってきた。8/6 での出来事や友人の被爆のお話を被爆者本人から直接学ぶことで当時の状況や当時の人々が感じたことをより親身に知ることができた。

そして、未来に向けて核の恐ろしさを世界の人々がもっと知るべきだということと、原爆死没者慰霊碑の碑文である「安らかに眠りください 過ちは繰返ませぬから」の意味を全世界に向けて崇高なメッセージとして残す必要があるというお話をいただいた。

✓グループディスカッションでは、「今平和ではない状態とはどのようなことがあるか。またそれはどのようにしたらなくなるのか」というテーマのもと、平和ではない状態という定義について意見をかわした。その結果、平和ではない状態とは自分たちの日常や社会の中に潜む、人々が安心して尊厳をもって生きることを阻む様々な「見えにくい問題」というものをさすと考えた。そういった状態をなくすために自分たちができる第一歩として、お互いにリスペクトを忘れずに異なる文化を理解しようとする姿勢を持つことだと思う。

ま

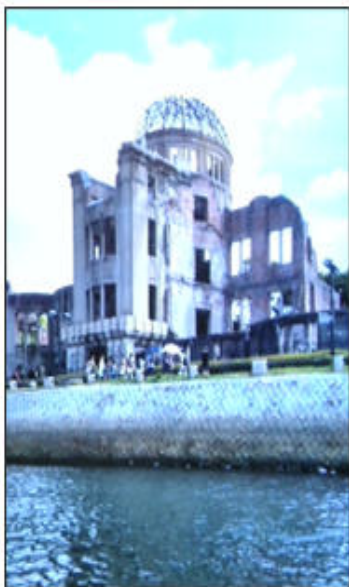
平和を実現するために今から自分たちにできることとして世界で起きていることに目を向けることだけでなく学校や地域社会の身近な問題も平和ではない状態の一部としてとらえ、自分たちに何ができるか考えて行動する必要がある

【番外編】おりづるタワーにて

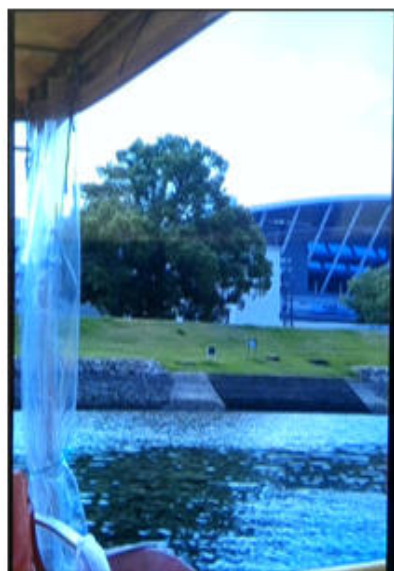
2016 年に建てられ、最上階では鶴を折り、投下することができ、折り鶴は今約 30 万個たまっている。そのうちタワー全体を満たしたら、再生紙に使われる。展望台から原爆ドームや爆心地を見ることができた。

八月
五日
火曜日
日直





↑↓水上クルーズにて



白井市平和使節団 2 日目

水上クルーズでは、街中に被爆樹木や平和をイメージした建物や設備が本当にたくさんあった。人々が水を求めて川に飛び込んだことを想像し、当時の恐ろしさを感じた。広島に住む人々が「平和」という当たり前に思えて実は当たり前でないものに日常的に触れ、それについてとても大切に思っていることが分かった。

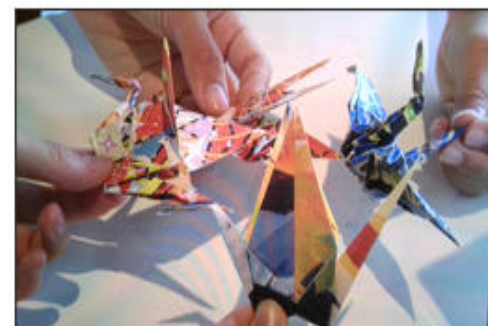
本川小学校では会長の柴田さんからお話を伺うことができた。広島は三方を山に囲まれ、軍需工場や珍しいT字の相生橋、そして当日快晴だったことなどアメリカにとって最も好都合な場所であったこと、私よりも小さな子供達が亡くなる間に「お母ちゃんに会えたからそれでいい」「立派に死んだと伝えてください」と言っていたことを知り、今の生活からは到底考えられない壮絶すぎる世界だと思った。

また平和の集いに参加した際、ディスカッションのテーマ①「各地域のWW2での被害」について議論した際、地域が異なっても被害や影響に共通点があったことに驚いた。才木さんのお話やディスカッションを通して、平和のためには相手を思いやることがとても大切であることを改めて学んだ。

「平和」は本当に漠然としている。だが、学校で意見が対立したときに相手を否定せず尊重するなど、しっかりと向き合っていけば身近なところから少しずつ平和へと近づくと感じる。今回の体験をしっかりと生かせるよう、普段から行動していきたい。

令和 7 年 8 月 5 日

白井市平和使節団 13



↑折り鶴タワーの展望台から見た広島が素敵で、原爆が投下され焼野原になった後の人々の凄まじい努力が感じられた。

何百万羽の、タワー約8階分もの量の折り鶴が溜まっているということを聞き、国を超えた平和への思いが詰まっているのを感じて感動した！



平和実現に向けて

白井平和使節団レポート 8月5日 No.4

平和学習の集いを通して…

原爆はアメリカが連合国との戦争させる一つの手段として日本に投下された。実際に、被爆者の才木幹夫さんの話を聞き、熱線の被害を受けた人は肌は黒く焦げ、髪はちぢれ、顔は赤黒くなり膨れ上がっていたということがわかった。また、ディスカッションを通して原爆の投下された広島・長崎だけでなくその他様々な場所で被害があったことがわかった。そして平和に向け、世界や日本の現状を積極的に知っていく必要がある。個人として一番大切にしていこうと思ったことは、マイナスな面ばかり見るのではなく、プラスな面に目を向けていくことであり、これは人に対してだけでなく自分に対しても言えることなのではないか。人を大切にするだけでなく、自分も大切にしなければ平和にはならないと考えた。

8月5日の活動を通して

私が一番印象に残ったことは平和学習の集いの才木幹夫さんの話であり、実際の原爆はどのようなだったか、平和がどれだけ大切なのかということを知っている幹夫さんの言葉一つ一つには重みがあり、私の心が大きく動くきっかけとなった。私は、今までにないほど平和について、そして戦争の辛さについて、興味や関心を持つことができた。私はこの思いを身近な人にも伝え、すべての人が平和について考え、そして願ってほしいと思った。

おりづるタワー

おりづるタワーには多くの折り鶴があり、展示されているもののほかに訪れた人が折り鶴を、作る体験をすることもできました。折り鶴は幸福の象徴とされており、祈りや願いを込める意味があります。おりづるタワーからは原爆の被害を受けた建物を残しながらも現代へと変化していく広島の風景を見ることができました。

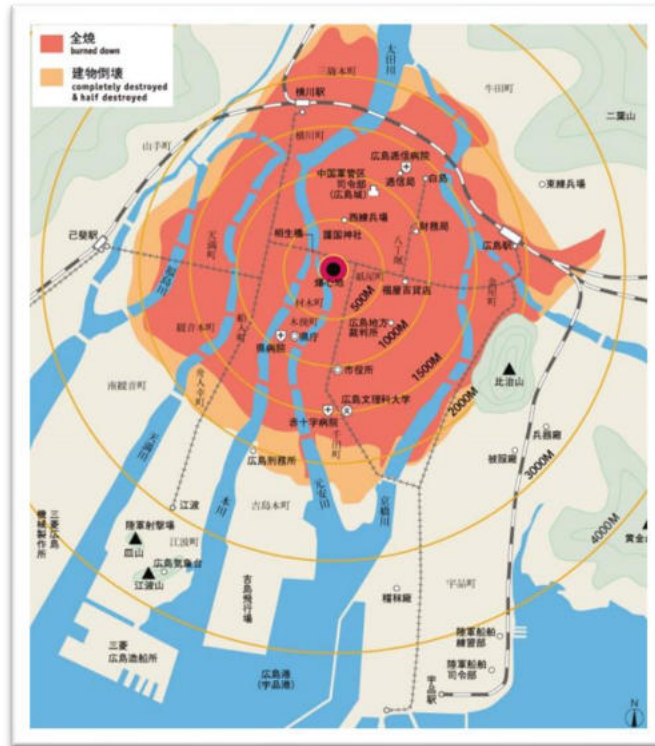
平和使節団 二日目

白井市平和使節団 No.5

「第1回全国平和学習の集い」 被爆体験証言より

被爆者である才木幹夫さんは、十三歳の時に爆心地から2.2km離れた自宅で被爆しました。幸いにもその時一緒にいた家族は全員無傷で無事でした。しかし、家の前を被爆し大やけどを負った人たちが通り、水を求めてきたそうです。

自分は助かって友達や同級生が亡くなったり、けがを負ったりして苦労しているのに「自分はなんで生き残ってしまったのだ」と罪悪感が残り、被爆についての証言活動も2024年から始めたそうです。



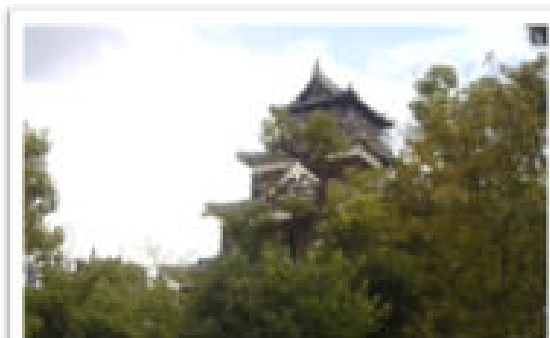
広島城は、江戸時代初期に毛利輝元によって建てられました。天守閣の高さは約26.5mあり、三層構造で戦いやすい設計になっていることに加えて、外見はとても美しいことで知られています。原爆が落ちた際に爆風で大部分が飛ばされましたが、その後再建されました。現在では、中に入ると広島城の歴史に関わるものを見たり、歴史の流れを知ったりすることができます。最上階は展望台ようになっていて広島市内を一望することができ、広島でも人気の観光名所となっています。



左の写真は広島城にある、鉄砲で打つために作られた穴です。敵が攻め込んできた時にはここから鉄砲を打っていました。他にも、石垣を登ってくる敵を倒すために作られた「石落とし」などを見ることができます。実際に刀を持つことができるブースもあり、刀は約一メートルで、重さは約一キロもありました。常に腰に差したまま行動しなければならなかったので武士の左腰には相当な負担がかかっていました。

広島城

班別学習で、最初に見学した所は広島城。広島城では原爆投下後の城周辺の姿を見ることができた。また、被爆後の基町の復興などを見ることができた。



おりづるタワー

次に見学したところは折り鶴タワー。そこでは名前の通り折り鶴を折り、折り鶴の壁という高い穴から下に向かって折り鶴を落とした。そこはなんと約115万の折り鶴があり高さはビル8階にもなる高さ。また、スパイラルスロープという散歩坂では13階上ったのでとても疲れたが、屋上展望台で広島のような景色を見ることができた。

二日目を終えて

今回、全国の中学生・高校生とのディスカッションを通して、日本各地で様々な被害があることを知った。

これについて資料などを作成して、みんなに見せることができたらしいと思う。

「全国平和学習の集い」

二日目午後の「平和学習の集い」では戦争を実際に体験した斉木さんの話を聞き、原爆についての概要も知ることができた。グループでのディスカッションでは初めのうちは緊張していたけれど、話していくにつれて緊張がほぐれていき、自分の意見を聞いているみんなが聞きやすいように伝えることができてよかった。

また、全国の中学生の戦争に対する意見をきいて自分の考えでは、日本は原爆が落とされたことにより莫大な被害を受けたと考えていたけど、日本全国では空襲もあって被害を受けたと改めて考え直すことができたのがいい体験だった。今回戦争について考える場を設けることがなかったらこの先、生きている中で戦争のことが頭の中にも入らなかったと思うのでとてもいい機会だった。

平和使節団 2日目 第1回「全国平和学習の集い」ディスカッション

広島に落とされた原爆の名称は

「リトルボーイ」

長さ3m 直径0.7m 重量4t

核分裂性物質ウラン

爆風50%熱線35%

放射線15% の威力を

持っている。



米が戦争終結のために練った**作戦**

- ・上陸作戦
- ・ソ連参戦
- ・天皇生存続
- ・原爆使用

投下目標の**検討**

- ・新潟
- ・広島
- ・小倉
- ・長崎

これらすべての地域は、
米の「マンハッタン計画」の条件
に合致していた。



テーマ①

第二次世界大戦下のそれぞれの地域の被害

食料を生産して、国を支えている地域は、国が
守るべき市町村の優先順位が高かった。また、
軍事施設や人口が多い市は、狙われやすく、空
襲が多かった。

学童疎開として選ばれる市町村の理由は、食べ
物が確保されていたり、避難しやすい都市に近
い地域が選ばれると思った。

テーマ②

今、平和ではない状況とは

平和でない状況とは、世界で戦争があることや、
安心・安全をおびやかされる状態のことだと思
う。安心・安全が脅かされる状態とは、戦争の
ことだけではなく、差別やいじめも入る。

それらを解決するには、争い方を変え、人を理
解し尊重すること、問題について一人一人が前
を向く姿勢が大切だと感じた。

8月5日

全国平和学習の集い

「ディスカッション」

全国各地の人と

「あなたの地元では第二次世界大戦中どんな被害を受けましたか」

「あなたが考える平和ではない状態とは何ですか」
の二つのテーマでディスカッションを行った。

戦争は全国各地に空襲で被害を与えただけでなく、人々の心にも（精神）大きな影響を与えた。私たちが考える「平和ではない状態」とは世界や自分たちの身近なところでは

- ・戦争や紛争、貧困など
- ・差別やいじめなどが上がっていた。

解決方法としては

- ・個性を認め合う
- ・SNSをうまく利用する
- ・自分と他人を大事にする

- ・今の行いを見直す
などがあげられた。



「全国平和学習の集い」 全国の若者たちと

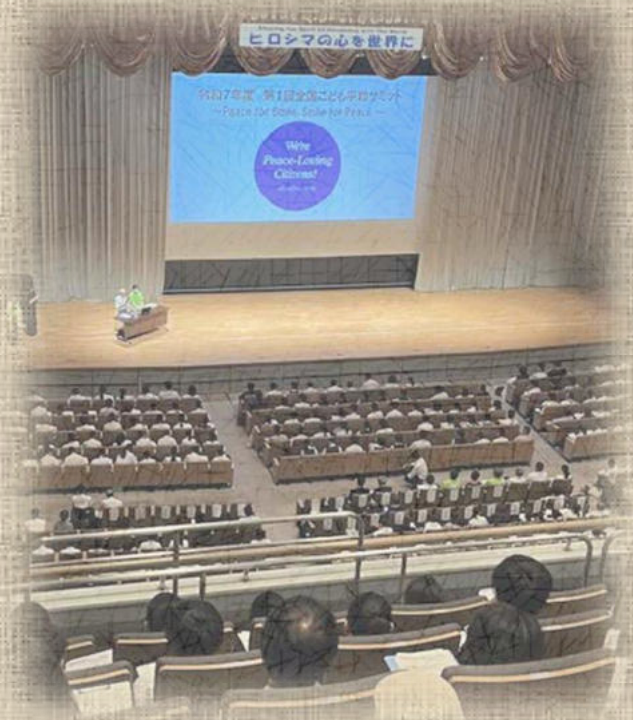
8月6日（水）

午前：平和記念式典参加

班別行動

- ・第1回全国こども
平和サミット
- ・青少年文化イベント 他

午後：帰路に



平和を全員で創るとき

被爆者が伝える戦争の悲劇と 平和を唱え続ける重要性

戦後80年である今年の
平和記念式典では多くの
方が参加し、この世界を
生きる人として、未来社
会の平和について唱える
時間はとても崇高なもの
だと感じた。

広島市長や県知事・こ
ども代表の言葉を聞き、
当時経験した被爆者がい
なくなる世界が近い将来
であるという話を受け、
被爆者の方々から直接話
を聞く機会がすくなつて
いるからこそ、どんなに
時が流れても、あの悲劇
を風化させずに記録とし
て被爆者の声を次の世代
へ語り継いでいく使命が
私たちにはあると再認識
した。そしてそれを必ず
や全うしなければならな
いと思った。

また、世界を見れば
今でも戦争が起こって
いる事実を自分事とし
てとらえ、平和につい
て関心を持ち、多様性
を認め、相手のことを
理解しようとし平和の
ために行動をしようと
思った。

ヒロシマの心を

世界へ

広島国際会議場では
ZEMEXが制作したVRを活用
した被爆体験をすることが
できた。

どれもリアルなもので、か
なり心が痛いものだった。
自分自身グロテスクな映像
には抵抗があった。しか
し、今回の映像はどこか目
が離せなかった。そうする
と、原爆による悲劇から目
を背けることになる様たつ
たからかもしれない。
どんなに恐ろしいことでも
どんなに辛いものでもそれ
が事実であり真実である。
だから、私達は目を背けず
真摯にそれに向き合う必要
性があると実体験を含め感
じた。

使節団新聞

号外

Stand for
Peace

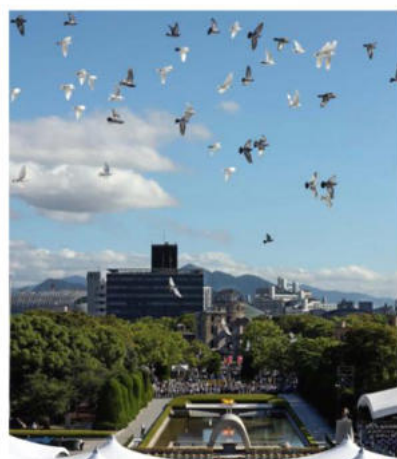
平和使節団 三日目 令和 7 年 8 月 6 日

白井市平和使節団 No.5

広島市平和記念式典



鳩の放鳥



鳩を飛ばす理由は、鳩には平和や希望という意味が込められていて、戦争を繰り返さないという想いを形にするためです。また、魂を天に送るという意味も込められており、式典の中でも重要な儀式とされています。

この鳩は飛ばされたあと、自力で飼育小屋まで帰ってくることができます。最近では、暑さや環境変化などで鳩への心配の声も上がっており、風船や映像への移行も検討されているそうです。

平和宣言



平和宣言は毎年式典で広島市長が読み上げるもので、最初の式典で当時の市長が読み上げたことから始まりました。その年の社会情勢などを見て毎年内容は変わるそうです。

平和記念式典は昭和 22 年（原爆投下から 2 年後）から始まり、現在まで行われています。この式典は原爆で亡くなった人たちを慰霊することや、若い世代へ原爆の悲惨さを発信するなど様々な意味があり、とても重要な行事として世界中から注目されています。

今年の式典にも 120 か国・地域が参加し、内閣総理大臣である石破茂氏も参加しました。核兵器を今も保持している国としては、イギリス、フランス、インド、イスラエルなどが参加しました。出欠の回答がなかった国もあったそうです。

参加して思ったこと・感じたこと

- ・式典を毎年やっていることは知っていたけれど、今回参加したらすごく貴重な体験で、原爆や戦争についての興味・関心を高めることができました。
- ・核兵器を持っている国の参加が意外と多くて、これを機に核兵器の研究や保持について考え直してくれたらいいなと思いました。
- ・今回参加していなかった国については、一度参加してみたいと思った。
- ・憲法にあるように、日本はもう戦争をしないことを誓っているけれど、他国が日本に攻め込んできたらどうするのか気になりました。
- ・最初は式典に参加した実感がなかったけれど、鳩が飛ぶ様子や来賓の退場を見て、参加したという実感がわいてきました。
- ・原爆で亡くなった人は顔が分かりにくいし、声も出せずにいた人も多かったと思うが、どうやって自分の身内や友人などを見つけて名前を被爆者名簿に載せることができたのか気になりました。

平和への光

令和七年八月六日

白井市平和使節団三日目

十三

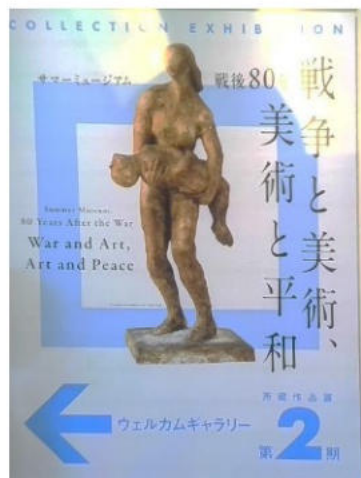
光に向かつて這い進め

いつか訪れる平和な未来へ

戦後から八十年。いつもテレビでなんとなく眺めていた広島平和式典に初めて参列した。会場には五万人以上の人々が訪れ、その中には外国の方も多くいたことに驚きを感じた。プログラムの一番最初には、原爆慰霊碑に原爆死没者名簿が奉納された。この一年で新たに四九四〇人が死没者として確認されたことを聞き、原爆の恐ろしさや被爆者がいなくなってしまうことへの恐怖を感じた。それと同時に、戦争という悲劇を繰り返さないため、絶対に風化させないために、私達が原爆や戦争について学ぶ姿勢をよく持ち、よく理解し、発信していくことの大切さを知った。また私は特に、広島県知事の挨拶に感動した。一文を引用して記事に乗せようとしたがそれができないほど、すべての文章に平和や核廃絶に対しての力強い思いがこもっていた。さらに子供代表として発表していた二人の小学生の目はお世辞なしで本当に輝いていて、椅子に座って見ている私達に全力で訴えかけているようだった。私はその訴えに応えられるよう、平和使節団としての活動が終了しても自ら被爆者などの講演会に参加したり、家族や学校で学んだことについて発表したりしていきたい。全世界の人々が、彼らのように心から平和を願い、武力ではなく話し合いで解決できる世の中になればいいなと思った。

「安らかに眠って下さい 過ちは繰り返しませぬから」

この言葉を大切に、亡くなった方々の分まで毎日を精一杯生きていきたい。



↑ 県立美術館
「戦争と平和、美術と戦争」

芸術から見た平和

言葉を使わずに思いを伝える

平和記念式典の後、ヒロシマ県立美術館を訪れ「戦争と美術、美術と平和」という題の展示を拝見した。

私は美術館に行つてじっくり展示物を見るのはこれが初めてだった。「戦争」や「平和」といっても画家によつてその捉え方や絵に違いが出るのが面白かった。また同じ絵でも観賞する人によつて多種多様な想像ができるところに魅力を感じた。例えば左下の絵画は「車庫近く」という松本俊介さんによる絵だ。私は初め、戦中に潜んだ些細な平和を描いたものだと考えていたが、実際は今にも切れてしまいそうな電線や重い鞆を持つ旅人らしい人影から、もの寂しさや心もとなさを描いた戦争に対しての絵という解釈だった。他にも、なぜか目をそらすことのできない、不気味でどこか美しい絵や原爆の惨禍をありのままに描いたものがあり素敵だった。

直接言

葉にしな
くても自
分の思い
が伝わる
方法があ
ることを
知ったよ
い時間だ
った。



今日、8月6日は原爆が落とされてから80年が経ちました。8時15分になり、黙祷をしました。平和の誓いをしていたり子供代表のスピーチにとっても心が打たれました。みんな、平和にしたい気持ちが同じだと改めてわかりました。式が終わり、「ヒロシマの心を世界に2025」に参加しました。高校生が描いた広島絵を見ました。被爆者と何度も打ち合わせをしたらしく、とてもリアルで見ていて、絵のうまさに感動するとともに、核のひどさが良く伝わりました。その後に、VRに行きました。被爆してから、どこに行っても絶望しかなく、当時の人の絶望さがよくわかりました。三日目では、平和にしたいという共感とまだ、核を保有している国があることがとても残念だなと考えました

原爆投下から 80年

8月6日 広島平和記念公園



令和7年8月6日

白井市平和使節団

2番



二二日目（八月六日）

悲劇を伝えるために

太平洋戦争（大東亜戦争）により、大勢の人が亡くなり、大勢の人がつらい生活を強いられた。「安心して眠ってください。過ちは繰り返しませんから」当時の人々はこの言葉の通り、自分たちが経験したつらい過去を、後の世代へと受け継いできた。自らの口で当時の経験を語るもの、戦争の悲劇を伝えるための本を出版するものなど。そして中には、戦争の様子を、絵や彫刻といった、芸術で残すものもいた。そして、このような経緯で作られた作品を見るために私たちは広島県立美術館へと向かった。

県立美術館には、戦時中、広島へ疎開していた人や、実際に空襲に遭った人、目の前で、原爆に遭遇した人の作品が、数多く展示されていた。作品の中には、見るものがつらいと感じる作品もあった。

これらの作品は、共通して暗いトーンで描かれており、作者の戦争に対する恐怖を、鮮明に感じ取るこ

とができた。「戦争は絶対に繰り返してはならない。」

戦争を経験した人々が様々な形で伝えてきたこの思いを、これからはわたしたちが伝えていく必要があると思う。これ以上必要のない犠牲を増やさないために。



車庫近く：松本竣介



漆画爆撃行：六角紫水

白井市平和使節団
八番
平和記念式典・県立美術館

白井市平和使節団
8月6日レポート
No.4

～平和祈念式～

この平和祈念式では「平和への誓い こども代表」が特に印象に残った。私よりも年齢が下である子が戦争や平和について学び、深く考え、そして数えきれないほど多くの人々の前ではっきりと口にしていたことに感動した。また、私や身の回りの人がもっと関心を持ち、しっかりと向き合っていかなければならないことに気付かされた。

～ヒロシマの心を世界に2025～

私は平和祈念式のあと、青少年平和文化イベントに行き、原爆の絵画展や銅板折り鶴の製作実演などを見た。その中でも特に心に残ったのは原爆のVR体験だった。そのVRでうつされたのが私が今までに見たことがないような悲惨な景色であったとともに、友達を失う辛さを感じた。自分も大やけどを負いながらも家族や友達を失うのがどれだけ辛いことなのか、と思うとこれからの未来への平和の思いがより一層強くなった。

平和使節団3日目



平和記念式典

内閣総理大臣、広島県知事、国際連合事務総長の挨拶を聞き、それぞれの立場から、考え方、平和を目指すためにすることなど、国や地域で方法が違っていった。

けれど、全員が共通して「戦争をしてはいけない」という強い思いがあった。

私たちは私たちに、広島に実際に行った体験を話していくことなど、平和に向かって行動していきたい。

広島県立美術館

被爆当時の広島の様子や変わり果てた心情、生活が一変した状況を思いのままに描かれていた。

写真や文章では感じきれない感情が絵に込められていて、残酷さを訴えかけてきた。

VRでの被爆体験

12歳の時に被爆した兒玉光雄さんの見た光景を「VR」で再現したものを体験しました。映像では、兒玉さんが当時見た、傷ついた家族や友人の姿が映し出されます。視覚と聴覚を最大限に使い、まるで自分がその場所にいるかのような感覚に陥るほど、鮮明に描写されていました。

今までに、お話を聞いたり文章を読んだりして原爆の悲惨さや被害者への胸が痛む気持ちを感じていましたが、今回の体験ではこれまでとは違う、原爆に対する恐怖心が芽生えました。



出典：【360° 動画】兒玉光雄さんが語る被爆体験

私たちが世界平和のためにできることはとても少ないように思えます。ですから、まずは学校や職場、家などの身近な所をみんなが安心して過ごせるような環境に整えることが平和への第一歩になると私は思います。

平和記念式典&美術館

〈平和祈記念式典〉

たくさんの方が集まり、平和記念公園で行われた式典。

この場にいる人は少なくとも、みんな平和を祈っていることがとても伝わってきた。私は黙とうをささげるときに、80年前の“ここ”を想像しながらささげた。

私たちがこの出来事を語り継ぐためにはどうしたらよいのか、のたくさんのヒントをこの式典で教えていただいたと思う。

今日からできる小さな行動が平和につながるとおっしゃっていた。これを目標にしていきたい。

〈広島市現代美術館、被爆80周年記念～記憶と物～〉



その作品の写真は撮れませんでしたでしたが、私が一番印象に残った作品は、原爆を落とした側と落とされた側、それぞれの視点から書かれた作品でした。落とした側は、空からきこえる雲を見ている様子。落とされた側は、火の中飛行機を見上げている様子。なんだかそれぞれの主張を静かな美術館で見た人にできる限り伝えようとしている、深い作品でした。

広島 DAY3

平和記念式典

平和記念式典

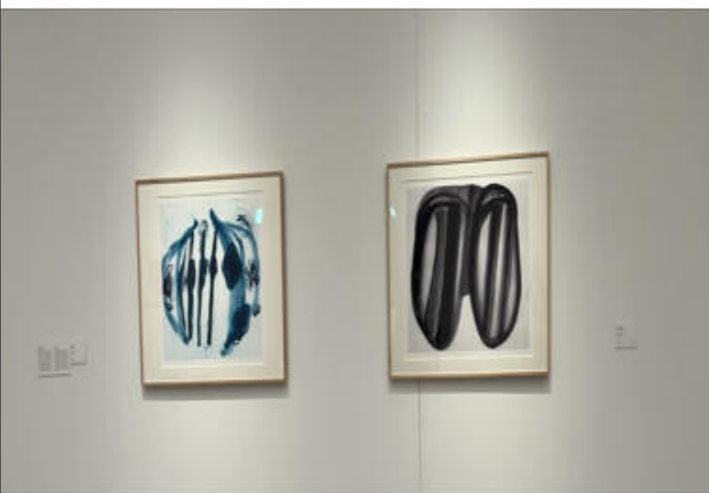
8月6日は平和記念式典が行われた。被爆者の方、その方の遺族、その人たちの気持ちがすごく伝わる式典だった。本当は起こってはいけない事実。だが、過去は変えられないからこそ未来を生きる私たちがこのような式典に参加させていただき、とても濃厚な時間を過ごせたと思う。被爆者の方は正直思い出したくもないだろう。それにもかかわらず、私たちに伝えて下さって、とてもありがたく思う。私が一番思ったのは、核兵器を世界からなくしたいと強く願った。1年、2年では簡単に変わらないだろう。だが、国同士で協力し、このような過ちを二度と起こしたくないと思った。一人一人を尊重し、互いに認め合って生活していきたいと思う。絶対に絶対に核兵器を無くしてみせる。



現代美術館

班別学習の現代美術館は戦争についてあまり関係なさそうかと思ったけれど、戦争に関する絵が数多くあった。やはり広島はどこに行っても原爆を訴えているのだと思った。

戦争中のことや人が苦しんでいる様子を多くの絵で見ることができた。文章で見るよりも戦争中のことを想像するところがあった。



平和記念式典

- ・暑い中だったけれど、被爆して亡くなってしまった人と自分を比べると全く苦しくない、と考えることができ、耐えることができた。
- ・子供代表で小学6年生が「平和への誓い」を言っていた。小学生でもあのような素晴らしいことを考え、それを人に伝えることができていたので、自分も見習って他の人の戦争への考え、思いを変えていきたい。
- ・世界各国から首相とか観光客とかが来ていて、世界のこんなにも多くの国や人々から注目を集めているのだと思った。やはり、原爆などの核兵器はこの世界にあってはだめなものなのだと感じた。

広島に落とされた原子爆弾



名前…リトルボーイ
重さ…約4 t
全長…約3 m
(広島記念資料館より)

広島派遣三日目

式典

広島市長や、広島市の子供代表の言葉、平和宣言、国連総長、内閣総理大臣などのスピーチは、とてもレベルが高かった。特に国連総長は、広島についてこんなにも深い思いがあったんだなと思った。

近くの資料館

近くの資料館では、当時の戦争への思いを絵で表現した学生が、その絵について語る会や、原爆が落ちる瞬間を^①にし、実際に体験できる会が開かれた。^②では、原爆の恐ろしさ、食料不足について考えることができた。

自分の考え

今日の学習を通して、広島は日本からではなく、世界から見られているということを知った。また、当時の日本がどれだけつらかったかについて深く感じることができた。この経験を、みんなにも伝えていきたいと思った。

8月6日

平和記念式典

- ・核のない世界を作ること
- ・核と人類は永遠に共存できないこと
- ・平和な世界は私達子供が作っていくこと



が大事だと分かった。

VR 体験・原爆の絵

- ・NHKのVR体験では、被爆者の証言者をもとに原爆の映像を再現していた。
- ・リアルな原爆の映像を見るのは初めてだった。朝なのに空が真っ暗になり、夜みたいだった。崩れた校舎ややけどを負った人々がたくさんいて強い衝撃を受けた。
- ・高校生が描いた原爆の絵は被爆者が語ったことを再現していた。絵だけでも当時の様子がよく分かった。



令和7年8月6日平和記念式典の様子

まとめ

～広島派遣を通じて～



被爆から80年——未来へつなぐ平和への想い

平和使節団として派遣され 感じたこと

被爆から80年という節目を迎えた今でも、私たちは戦争の悲惨さを心から感じた。そして、広島に行く前は原爆の恐ろしさを頭で理解していなかったが、実際に現地を訪れて、その恐ろしさを強く実感した。

学んだこと

戦時下の日本、戦後の日本を、被爆者をはじめたくさんの方々から人々の想いや実際にあったことを学んだ。

これからの行動

広島で被爆者が少なくなってきた今、私たち一人一人が平和に向かって行動することが使命だと感じた。まずは、家族や友人など、周りの人から戦争についての説明を積極的にしていきたいと思った。

私たちの行動で未来は変わる

白井市平和使節団レポート 『三日間のまとめ』 No.4

＜広島で学んだこと＞

広島には多くの戦争の悲惨さを物語る建物などが残されていた。建物のほかにも実際に被爆者が着ていた衣服などがあった。私はそれを実際に目にしたが、その当時は想像もできないような悲惨な光景が広がっていたのだということはわかった。「平和学習の集い」では、広島のことも含め様々な都道府県での戦争による被害や実際の被爆者の体験談を聞くことができた。戦争は広島や長崎以外の都道府県にも多くの被害を与え、人々を苦しめてきたということを知ることができた。また、平和には人の心が大切であると学んだ。相手の立場になって物事について考えることや物事に対して前向きな考えを持つこと、そして人間関係において、嫌いな人も許せるような大きな器を一人一人が持つことが平和を自指すうえで大切なことなのである。

＜私の思い＞

私はこの平和使節団の活動を通して、今までにない良い経験ができた。また、平和についてさらに興味を持つとともに、日本や世界のこれからの平和を願って行動していこうと思った。私が平和について深く考えた結果、嫌なことが全く起こらないということはこの社会を成り立たせていく上では不可能だと思った。では、平和とはどのようなことを指すのだろうか。私にとっての平和とはこの世界の人が善悪を理解する人、仕事などでの上下関係とその他での人間関係のメリハリがついている人になることだと思った。私はそんな人になるために、まず自分を理解し、大切に思えるようになろうと思った。結局は自分のことを一番守れるのは自分だと思ったからだ。私が自分のことを大切だと思えた時、他の人の良さや気持ちも理解できるようになると思う。この世界で無駄になっていい命はないと心にきざみ、人の命、そして心を大切にしていきたい。

学んだこと

広島振り返り

まず一日目。初めての広島では、平和資料館で戦時中の広島の状況、食糧不足、学徒出陣などについて、深く学ぶことができた。

次に二日目、班別行動で水上タクシーに乗り、川岸から広島市内を見学した。ガイドさんが教えてくれたことがたくさんあり、とても参考になった。午後の平和学習の集いでは、全国の中学生とディスカッションすることができた。この機会はまだ二度と訪れないと思い真剣に臨んだ。第二次世界大戦には、全国でたくさんの被害があったことを知った。

最後に三日目。日本だけでなく世界も目を向けるような大きな式典に出席した。白井市の小さな一人だけど、出席することでいろいろな思いが感じ取れた。式典では、平和宣言や子供代表の言葉、内閣総理大臣や国連総長までもの人がこの式典に顔を出し、皆の前で代表としてお話をしてくれた。式典後は近くの国際平和会議場に行き、VR 等を見た。当時の広島や、原爆が落ちる瞬間の映像だ。言葉では表せないほどの大きな被害で、とても悲惨だったということを学ぶことができた。

感じたこと

当時の広島は、とても悲惨だということは知っていたけど、その悲惨さを目で、耳で、肌で、心で直接感じ取ることができ、戦後はどれだけつらかったのかということを感じることができた。



よかったこと

全行程に集中して取り組み、時間を守って行動できたことだ。なので次回や学校生活でも続けていきたい。

以上を振り返り、どんな広島派遣でしたか？

戦後から80年。語り部さんも少なくなってしまう、次は私たちが語り継がなければならない。目で、耳で、肌で、心で感じた私たちは、次は家族、学校、それが広まり全国へ。私たちから全国へこの貴重な経験を宣伝し、みんなが戦争への思いについて考えるべきである。そんな風に考えるようになったのは、広島派遣が終わってから。若者が、受け継いでいく時代になった今、みんなが協力して、あやまちをくりかへし内容にしていけることが大事だと思った。少し考えが変わった広島派遣だった。

被爆を伝える取り組み

左の写真は、高校生が被爆者の方のお話をもとに当時を再現した絵です。文字だけでは伝わりにくい光景を絵として表現し、被爆体験を継承しています。

広島国際会議場の展示室では、描いた高校生が訪れた人々に絵がどういうものなのか一つ一つ丁寧に説明していました。同時に英語の翻訳もされていて、多くの人に原爆のリアルを伝えていました。

また、広島市にはユースピースボランティアという広島市在住または通学している高校生、大学生のボランティア団体があり、外国人観光客に被爆の実相を英語で伝える活動をしています。今回は全国の中学生を集め、戦争や平和についてディスカッションをする機会を設けてくれました。



このように広島市では高校生が被爆体験を国内外に継承する活動をしています。

私は戦争について、国語の授業の物語ぐらいでしか習っていない気がします。学校へ行っているだけでは、戦争を学ぶ機会が少ないので、自ら積極的に学ぼうとすることが大切です。

広島では、戦争を風化させないために様々な取り組みをしていました。教科書で学ぶだけでなく現地に行って見聞きすることが重要だと思います。

私は広島で学んだことを忘れないように今後も関心を持ち続けたいです。

総合・振り返り

白井市平和使節団
八月四日～六日 八番

広島派遣を経て

私は先日、平和使節団の一員として広島市を訪れました。

広島では、原爆ドームや平和の灯などを見学し、原爆の恐ろしさや当時の人々の想いを深く感じたり、平和記念式典に参加し、様々な人のお話を聞きながら、改めて平和について考えたりなど、とても有意義な時間を過ごすことができました。

そんな広島への派遣で、最も大きな発見があったのが、二日目に行われたグループディスカッションです。このグループディスカッションは、全国各地の中学生と、戦争に関する題材について意見を交換し合うといった企画で、広島を中心に活動している「ユースピースボランティア」が主催となって、行われました。

そんなグループディスカッションを通し、広島に住む中学生と話をしたこと、僕は、広島市とほかの市の「一人一人の平和に対する思い」の差が、とてもあるように感じました。

なぜそのように感じたのでしょうか。その要因は大きくは二つあります。

一つ目は、「平和にまつわる施設の多さ」です。

被爆地である広島市には、被爆時の人々の様子などを詳しく学ぶことのできる平和記念資料館や、世界遺産にも登録されている原爆ドームなど、数多くの平和にまつわる施設があり、その全てが、戦争の恐ろしさや悲惨さを感じさせるものでした。そして二つ目は、「平和について学ぶ機会の差」です。

広島市では、平和を願い、**被爆後、七十年間草木は生えないといわれた中でいち早く咲いた「夾竹桃」**（広島市の花となっている）という花を植えたり、毎年八月六日は学校に登校し、学校から平和記念式典の中継を見たりと、ほかの市よりも圧倒的に、平和に関わる機会が多いことがわかりました。

これら以外にもたくさん要素が重なった結果、広島市とほかの市で、平和に対する思いに差ができてしまったのだと思いました。

これらのことから、私たちが平和な世界を作っていくためには、まずこのような地域ごとの意識の差をなくしていくことが必要不可欠で、そのためには、私たちが「平和」に触れる機会を増やしていくことが、重要だと思いました。

もし、世界中で、平和に対する意識の差がなくなれば、平和で争いのない世界への道が、大きく切り開かれると私は考えます。

平和



はじめに

私は今回、広島平和使節団に参加し、平和の大切さや、命の尊さについて深く学ぶことができました。この活動は、戦争や原子爆弾の被害を知り、未来の平和な社会を考えるための大切な機会となりました。

活動内容

広島平和記念資料館では、原子爆弾投下による被害の実態を学びました。被爆者の方から直接体験談を伺い、戦争が人々の命や生活をどれほど奪ったのかを知りました。また、平和の集いで活動や、他校との交流を通して、平和を守るために若い世代ができることを考える時間となりました。

学んだこと

原子爆弾の被害は想像を超えるほど大きく、一瞬で多くの命を奪いました。その後も苦しみは長く続き、被爆者の方々は今も後遺症や差別に苦しんでいます。このことから改めて戦争は決して起こしてはならないこと、そして平和の尊さを後世に伝え続ける必要があることを学びました。

感じたこと

実際に現地で見えて聞いたことは、教科書だけでは知ることのできない重みを持っていました。特に被爆者の方の言葉は、心に強く残りました。

「二度と同じことを繰り返してはいけない」という思いを次の世代につなげていかなければならないと感じました。

今後にかすこと

今回の経験を自分の中だけで終わらせるのではなく、家族や友人に伝えていきたいです。また、日常生活の中でも命や人の尊厳を大切に、争いをなくす行動を心がけていきたいです。

まとめ

広島平和使節団に参加したことで、平和を守ることの大切さを強く実感しました。この経験を忘れずに、自分にできる小さなことから取り組み、平和な社会づくりに貢献していきたいです。

まとめ

～この体験を通して学んだこと～

私はこの体験を通して数えきれないほどのことを学んだ。

その中でも伝えたいことが、二つある。一つ目は、**平和を作るのは私たちでもできるということ**。私はこの旅に行く前までは、自分達だけじゃ難しいと思っていた。でもたくさんの人のお話を聞いて、その人たちは必ず子供でも行動に移せば平和に近づけるといった。そのために行動してほしいのが**相手に思いやりの心をもって接すること**。

二つ目は、**戦争を他人事だと思わないでほしい**、ということ。現在戦争を体験した方の平均年齢は86歳を超えており、語り継げるかが問題になっている。次に大人になる私たちみんなが学んで、これから生まれてくる子供たちに語り継ぐ必要がある。もう二度とこのような過ちを犯さないように。**戦争が起きている国にも、私たちと同じように夢を持った子供たちが大勢いる**。その夢をつぶしてしまうのは間違っていると思う。



広島派遣の総まとめ

応募した理由

自分が今回の広島派遣に応募したのは、曾祖母が実際に第二次世界大戦を通してのことを教えてくれたので、戦争がどのようなものなのかなどを詳しく知りたいと思ったからです。

周知活動

原爆や戦争についての考えを少しでも変えてもらえるように、自分が広島で学んだことや知識をいかして身近な人たちに伝え、それが白井市、千葉県とどんどん広がっていったらいいなと思います。具体的には、今回自分がメモをとったものを周りの人に見せたり、見て思ったことや聞いて思ったことを話したりして伝えたいと思います。

派遣を通して

平和使節団の派遣三日間を通して、普段なら知ることのできない原爆ドームのことをガイドさんに詳しく説明してもらったり、戦争の様子を資料館で見たりして、戦時中のいろいろなことをたくさん知ることができました。

また、人からの話を聞いて考えるより、実際に被爆したものや原爆に関するものを見て、その場で話を聞いて考える方が何倍もの重みを感じることができました。

今回の広島では戦争だけでなく、原爆について考えることや学ぶことができたので、次は原爆が落とされた理由の元である戦争について深く考えることによって、リトルボーイよりも恐ろしいツァーリ・ボンバが落とされずにすむと思いました。

被爆地への訪問全体を通して

この 80 周年という節目にこういった使節団の一員として被爆地を訪問することができて本当に良かった。そこでは書物や映像だけでは得られない、現地の方の声や空気からその実態や悲惨さを知った。そこからは多くのことを学び心に深く残るものがあった。



Peace Mission

—Let's Act for a Peaceful Future—

使節団の派遣前と後

派遣前は、「戦争」や「原爆」といったものに対して漠然とした印象しかもっていなかったのだが、この使節団派遣を通してそれらの恐ろしさを身近に感じ、平和な未来を創るために一人一人が考えを持ち行動することの必要性を強く感じた。

平和学習の集い・平和祈念式

平和学習の集いを通し、全国の自分と同年代の人と意見を交換することで多様な考えに触れ広い視野を持てたと思う。

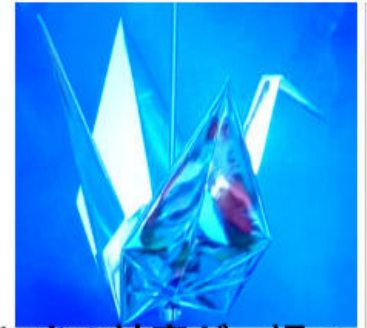
また、平和祈念式典では静かで厳かな黙祷や祈りの時間に、命の重みと戦争の悲惨さを深く感じた。



平和な未来へ

終戦から 80 年。被爆者がいない世界が近いうちにおとずれる。
「安らかに眠りください 過ちは繰り返させぬから、原爆死没者慰霊に書かれているこの碑文。それを実現するために、戦争や原爆を過去の出来事として終わらせるのではなくそれらの記録を「記憶」とし心に宿し、未来に向けて平和の尊さを発信し続けていきたいと思う。」

広島派遣を通して



体験したこと

原爆ドームで、説明を聞き歴史資料館に行きました。初めて実物を見て被害のひどさを目に焼き付けました。二日目のディスカッションでは、全国から来た人とたくさん話し合い、平和に対する思いをたくさん共有することができました。三日目では、平和祈念式典にて、子供の力強い声に心を打たれました。その後、広島的心を世界に2025にも参加しました。特に印象に残ったことは、VR体験です。VR体験では、目で見て音を聞いてよりリアルな被害を体験して、とても心に残りました。

私の考え

私は原爆ドームや歴史資料館をみて、原爆が落とされたときの被害が、調べるだけではわからないことがたくさんあり、原爆の恐ろしさをよく知りました。原爆を二度と落としてはならないともう一度考える機会になりました。ディスカッションでは、平和にするための解決方法に「話し合い」が上がってきたので身近な学級でも、何かを決めるときに話し合いを大事にしていきたいと考えました。また、才木さんの話に原爆ドームを残したくないと言う話を聞き、原爆がどれだけのトラウマを残したか、しっかりと考えることができました。今ある資料を大事にしていく必要があると思いました。送られてきた千羽鶴を広島市内の卒業証書にっていて、とても良い活用方法だと思いました。



広島派遣を通して

白井市平和使節団

2 番

平和への光

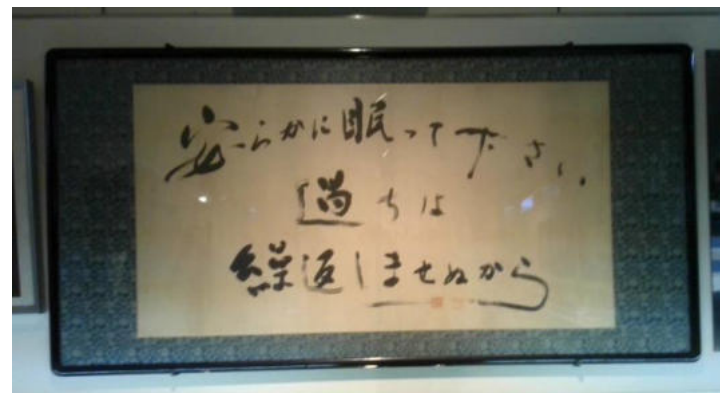
令和7年8月15日
白井市平和使節団 13
最終まとめ

私たちが世界を平和にする

私はこの夏、白井市平和使節団の一員として広島を訪れる機会をいただき、戦争と平和について深く考えることができた。

原爆ドームなど被爆建物や平和記念資料館では、被爆当時の写真や遺品を目の前にして、あまりの残酷さに何も言葉が出てこなかった。丸焦げになったお弁当箱や三輪車を見て8月6日の朝もいつも通り起きて過ごしていたことを想像すると、被爆したわけではないのに今でも胸を強く締め付けられ息ができないような気持ちになる。

実際に体験した被爆者の方々が当時のことを思い出すのは、どれほど辛いだろうか。それでも平和の実現のためにその体験や思いを私達に必死で語ってくださる被爆者の方々に本当に感謝しなければいけないと思った。しかし今、全国の被爆者は10万人を下回り、平均年齢は86歳を超えてしまっている。「被爆者がいなくなる日」が迫っている。だがそこで絶対に人々が紡いできた糸を切れさせてはいけない。そのために私ができることは、まず今回広島の地で見て、聞いて、感じたものを周りの人に共有することだ。以前の私のように、体験していないから関係ないと思っている人に、私の心に刻まれたものや価値観の変化を伝えたい。原爆は、「ただ教科書に乗っている過去の爆弾」ではないことをどうしても伝えたい。私は今、平和使節団で体験したり学んだりしたことを英語で書き、一つの本にまとめている。この本は、文化祭のような機会で展示することで生徒だけでなく小学生から高齢者まで、中学校に訪れた幅広い年代の方に私の思いを伝えることができる。このように、これからも戦争と平和について絶えず考え、行動していきたい。世界を平和にするのは、私たちだ。

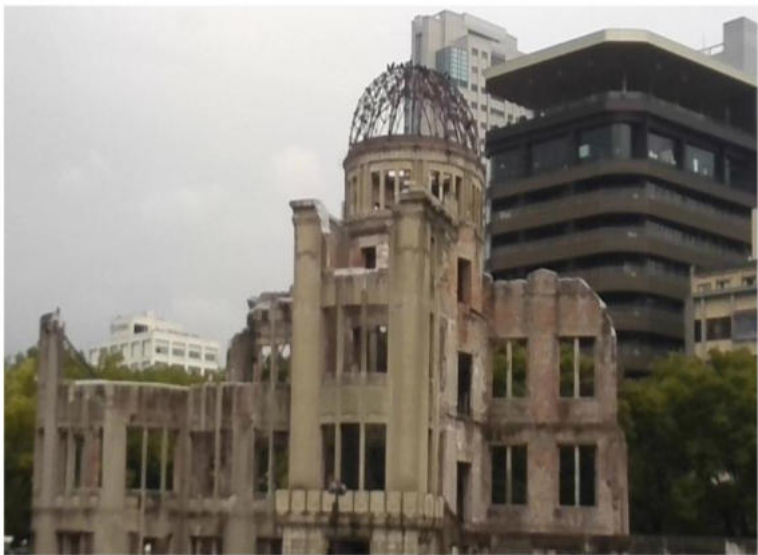


↑本川小学校に展示してある言葉。同じものが広島平和記念公園の「原爆死没者慰霊碑」に彫られている。「安らかに眠ってください 過ちは繰り返しませぬから」この言葉を胸に、この先も絶対に過ちを繰り返さぬよう平和を追求していきたい。



↑折り鶴タワーにて平和への念を込めて作った折り鶴。このタワーにも広島の街にも外国人が多く、原爆について知ろうとし、平和を願っている人は世界中にいることを認識させられた。

3日間の広島派遣を経て



～広島原爆について～

いつ : 昭和 20 年 8 月 6 日、午前 8 時 15 分
どこに : 広島県広島市、爆心地は広島赤十字病院
どこが : アメリカ合衆国※当時世界一番大きかった
エノラ・ゲイという飛行機が落とした。
死者数 : 14 万人以上
なぜ落とした? : 戦争を早く終わらせるため、原爆の威力を
実験するため、ソ連への牽制など多くの理由
がある
なぜ広島に? : アメリカ兵捕虜がいない、あまり空襲によ
る被害がない都市、三方が山に囲まれている、晴天で見晴らしが良かったからなど
どんな違いが? : 普通の爆弾は着地してから爆発するが、原
爆は上空で爆破することで威力が増す。高度
9600m から落とし、600m のところで爆発し
た。

白井市平和使節団 No.5



平和の灯は、核兵器を世界からなくすことと、世界平和の象徴として原爆投下から 19 年後に作られました。火は世界から核兵器がなくなったら消えるようになっており、今でも火は消えていません。また、平和の灯の下には水が張ってあり、水を求めて原爆で亡くなった方々が天国で水を飲めるようにと願いが込められています。火を灯している台は、両手を模した形になっており、この手も平和の象徴となっています。



VR体験 NHKが製作した、兒玉光雄さんの体験談をもとにした被爆体験の VR を体験しました。自分がその場にいるように錯覚するほどリアルに作られていて、当時の状況や悲惨さがより正確に伝わってきました。最後に兒玉さんからのお話があり、ここでは自身の思いや考えなどが語られています。少しグロテスクな映像もあるので注意が必要ですが貴重な体験でした。

《3 日間を通じて感じたこと・思ったこと》

- ・資料館では被爆者の皮膚の写真や当時の広島市の状況などの展示があり、かなりショックが大きかったです。しかし、核兵器の恐ろしさを伝え、つないでいくことの大切さが分かりました。
- ・被爆者の話を聞いて、その当時の絵を高校生が描くという取り組みがあり、展示を見ました。絵と共に描かれていたコメントですごく印象に残ったものがあります。その人は建物の下敷きになった人を助けている時に、火が回ってきたので逃げようとしたそうです。しかし、身動きの取れなかった人が足首をつかみ、助けを求めたそうです。それでも振り切って逃げてしまい、非国民と非難され苦しんだというものでした。

戦争当時はそれほどまでに余裕がなかったことや、自分の身を守ることに必死だったのだということがとてもよく分かりました。

まとめ

広島派遣では、原爆が落とされた理由・当時の被害、核のない平和な世界を作るための活動などを知った。被爆者からの証言で、

「人類と核は永遠に共存できない」という言葉が印象に残っている。

平和な世界とは、どのような世界か。また、これからの未来を作っていくのは、私達子供だ。今回広島で学んだことをたくさんの人に発信して誰一人残さず、全員が笑い合える世界を作っていきたいと思う。



帰路 新幹線の車内で



令和 7 年度白井市中学生平和使節団

第 1 期 派遣生徒

NO	氏 名
1	鵜野 綾音
2	村上 結咲
3	奥野 絢美
4	後藤 夢空
5	鈴木 希美
6	島田 紗那
7	鵜沼 翔里
8	ハツ橋 広希
9	林 美晴
10	木村 雄太郎
11	樋田 潤美
12	安達 理晴
13	井上 美咲



令和 7 年 8 月 5 日
「平和学習の集い参加証」を手に

第 1 期中学生平和使節団派遣事業を終えて

被爆から 80 年目の節目に、白井市として初めての平和使節団を広島へ派遣しました。

派遣後の 8 月 19 日、事後学習会を行いました。現地で学んだことや感じたことを議論し、自分の考えを整理することができました。その姿から実り多き派遣であったことを感じました。

また、8 月 20 日になし坊ホールで行われた「スクールサミット」にも参加。午前と午後の部の最後に平和使節団の意義や平和について、自分たちの言葉で発信することができました。

9 月以降、中学校では派遣報告会が実施されました。その際の内容は小学生向けに編集して市内全小学校に配信いたしました。

白井市から平和の輪が広がり始めています。次年度以降、2 期生、3 期生が更にその輪を広げていけるように支援してまいります。

白井市教育委員会

発行者

令和 7 年度第 1 期白井市中学生平和使節団
事務局（白井市教育委員会）